



2月定例
那覇市議会

戦後80年、平和への取組み、沖縄振興策、
政治と力ネ問題、貧困・物価対策について

古堅茂治、湧川朝渉 市議が

代表質問



2月定例市議会で代表質問に立つ古堅茂治、湧川朝渉、両那覇市議

水道光熱費、ガソリン代、食材費への補助、 物価対策をさらに―古堅市議

2月定例市議会で日本共産党の古堅茂治、湧川朝渉両那覇市議は18日、代表質問を行いました。

古堅市議は、戦後80年、平和への取組みについて質問。その中で、沖縄は、本土決戦を遅らせるための捨て石にされ、県民の4人に1人が犠牲になったこと、その後、27年間にわたり米軍の直接統治下におかれ、広大な米軍基地が銃剣とブルドーザーで強制接収され、本土復帰後も膨大な基地が居座り、軍事優先、基

地の島として筆舌に尽くしがたい犠牲と苦難の歴史を経てきたこと、そして今、政府が行っている辺野古新基地建設の強行、自衛隊のミサイル部隊の配備、沖縄の戦場化を前提にした軍事要塞化を推し進め、沖縄を再び戦場に、捨て石にすることは断じて許されないと厳しく糾弾しました。

学校給食費の無償化について、党市議団が粘り強く取り組み、玉城デニー県政の無償化支援策と市の独自支援と合わせて無償化を求めてきたと指摘。今回、市が提案する負担軽減策は、党市議団の論戦が議会を動かし、市民の署名運動などと協力して進

めた結果と強調しました。

その上で、「給食費支援以外の物価高騰対策がない」と述べ、ミルクやおむつ等、子育て用品の購入費助成や中小業者の家賃補助、生活に困っている人へのコミュニティーフリッジ（公共冷蔵庫・助け合い冷蔵庫）の導入などを提案。市側は「市の独自対策を調査研究していく」と答えました。

また米軍基地を撤去させた新都心地区は、雇用が約200倍、税収も約45倍に増えているとして、「基地をなくせば沖縄は発展する」と力説。那覇軍港と自衛隊那覇基地の早期・無条件返還を訴えました。

高額療養費改悪は撤回せよ アスベスト使用実態追及―湧川市議

湧川朝渉市議は、石破自公政権が予算案に盛り込んでいる高額療養費制度の上限額を引き上げる改悪案について質問。全国がん患者団体連合会のアンケートから20代のスキルス胃がん患者の「子どものために少しでも長く生きたいが、毎月さらに多くの医療費を支払うことはできません。死ぬことを受け入れ、子どもの将来のためにお金を少しでも残す方がいいのか、追いつめられていきます」との声を紹介、市側に市長会などで政府に撤回を申し入れるよう求めました。湧川市議は、健康被害をもたらす

アスベスト（石綿）が用いられている可能性のある公共施設、市営住宅の実態を追及。市は、計30棟の市営住宅でアスベスト使用の可能性があるととして、調査を進めると答えました。

名古屋高裁が昨年10月、車の保有を巡る生活保護の停止を違法とした判決を出したことに触れ、国が保護利用者の車の使用制限を緩和することについて質問。市側は障がい者らが買い物などに行く場合、車を利用できるとした国の通知に沿って、保護行政を進めていくと答弁しました。

